

卒業生4万人 着々と成果

教育 2015

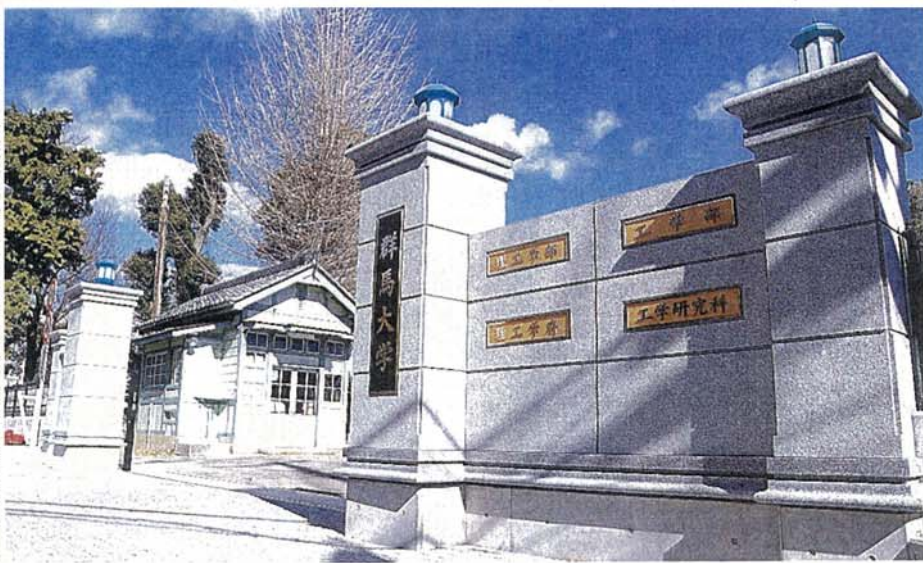
群大「工学部100年」

1



篠塚和夫・理工学部長

群馬大学は今年、工学部 記念式典を予定している。創立100周年記念事業として、様々なイベントや工学部のルーツは、19



塚越平人・桐生ガス会長が寄贈した正門。桐生市天神町1丁目

織りと染めルーツ 研究に磨き

15(大正4)年創立の「桐生高等染織学校」にある。養蚕と絹織物が盛んな桐生地域が「織り」と「染め」の技術者養成機関を求め、「紡織科」24人、「色染科」15人で開学した。続いて染色の研究に不可欠な応用化学科を設け、1920年に「桐生高等工業学校」と改称。その後、機械科や電気科も加わった。国立学校設置法の施行を受け、群馬大学工学部が誕生したのは1949年。2013年には工学部から理工学部と名称を変更して改組・再編を進めた。学部は7学科から5学科に、大学院も7専攻から1専攻に集約して四つの「教育プログラム・領域」を設けた。細分化された専門組織から横断的・多面的な研究ができる統合型教育への移行をめざし、教授陣ら「教える側」の任用など柔軟な人事異動にも取り組んでいる。創立以来の卒業生は4万人にのぼる。現在は教授、准教授、講師、助教の約220人が、学部生2348人と大学院生770人(2014年5月現在)を教える。

同窓生の塚越平人・桐生ガス会長



「100歳」を記念して、理工学部がある群馬大学桐生キャンパスの正門が、昨年12月に新調された。93歳の同窓生で桐生ガス会長の塚越平人さんが寄贈した。学生時代は赤れんがづくりの正門だったといい、塚越さんは「記念の年に間に合って良かった」と顔をほころばせた。1942年、桐生高等工業学校の応用化学科を卒業した。同期は男性ばかり。100年先まで学生たちを見守ってほしい(馬場由美子)

「楽しく厳しかった」母校に正門寄贈

成事業の採択件数にみてとれるという。基礎から応用まで様々な学術研究を進展させるための資金で、成果を記した論文をもとに研究の遂行能力を審査され、採択が決まる。過去5年間の新規採択累計数をみると、東大や京大などの旧帝大勢が上位を占める中、群大理工学部は「環境材料・リサイクル」で全国5位(2件)、「情報学基礎理論」で7位(11件)、「機械力学・制御」で7位(7件)と健闘している。これまで新規・継続合わせて113件が採択されたという。篠塚学部長は「様々な分野で研究が積み重なって、活性化してきたと感じる」と胸を張った。2015年に創立100周年を迎える群馬大学理工学部。群馬の頭脳が輩出してきた学びの今昔を追う。